

ユニバーサル便り

～ユニバーサル農業の実践を通じた地域の中の農福連携～

発行：風の森ファーム&ユニバーサル農業研究会@ふくろい

1. はじめに～ユニバーサル農業のめざすもの

「ユニバーサル農業」って何でしょう？ 「ユニバーサル」には「普遍的な」とか「万人向けの」とか「誰でもできる」などの意味があります。障害を持つ人やご高齢の方を始めとして、さまざまな人たちが「担い手」となって、地域の人たちが地域の中で農業や福祉を支え合っていく、そんな明るくて夢のある、住みやすい「地元」ができればいいな、そんな願いをこめてこのプロジェクトを始めました。

2. 「風の森ファーム」のご紹介

ユニバーサル農業の実践の舞台になるのが、この「風の森ファーム」です。袋井市村松にある福祉施設「風の森」の近くの農家さんの畑や温室をお借りして、小麦、藍やブドウなどをパイロット的に育てています。2019年8月には、収穫した藍を使った藍染の体験会を、また9月にはたわわに実ったブドウの収穫を行いました。



3. トヨタ財団「しらべる助成」の活動について

「ユニバーサル農場・風の森ファーム」はトヨタ財団の助成を受けて、2019年4月から1年間、本地域において地域のリソース（人・組織・場所・技術など）をつなげて活用し、農福連携のための「しくみ作り」を行うための調査活動をしました。その「しくみ」によって農業と福祉を結び付け、障害者の社会参加や雇用の創出を目指し、さらに多様な担い手による地域農業のあり方を探ろうという目的でした。調査の内容は、福祉施設、農家・農業法人、民間企業、その他アクター、農福連携の先行事例等の現状調査をして、実施内容の詳細や課題等を検討しました。また、

現状調査の一環としてアンケート調査票を作って、①村松地区の農家の実態調査や、②ユニバーサル農業の認知度や関心度調査も行いました。

4. 主な成果

調査を通して、地域における農業の現状や、農福連携を実践する場合の課題や留意点等が明らかになってきました。また、当初は農業と福祉（障害者）と民間企業の3者をつなぐようなしくみ作りが有効ではないかと考えていましたが、調査を進めていく過程で、地域との関わりの重要性がわかってきました。そして、地域の中で農業と福祉を支えていくような、持続可能なしくみ作りが必要ではないかという考え方になってきました。

5. 今後について

『しらべる』に続いて2020年4月から2年間にわたって、『そだてる』というトヨタ財団の助成を受けることが決まっています。今後は『しらべる』の成果を活用しながら、より具体的で実現可能なしくみ作りにつながるような活動をしていきたいと考えています。時代は「グローバル」から「リジョナル」へ。これからの時代は、地域に根ざした、地域密着型の活動がますます重要になってくる、私たちはそう考えています。このプロジェクトに対しても、皆さんが関心を寄せていただき、ご協力いただければと思います。皆さんのご意見やご感想をお待ちしています。今後とも未永く、よろしくお願いいたします。

(メール連絡先 : universal.agr.2018@gmail.com)

今月のコラム：「農福連携」と「ユニバーサル農業」について

「農福連携」は簡単に言えば障害者が農業分野で働くことで、障害者はそれによって現金収入を得て、農業側は新たな働き手の確保につながる。また農作業を通じて、障害者が自信や生きがいを持ったり、情緒が安定する等のセラピー的効果も期待できる。2014年頃から農水省や厚労省の交付金が整備されてきて広がりを見せていて、最近では地域の課題解決方法の一つとしても注目されている。

「ユニバーサル農業」は、障害者、高齢者、地元農家等の多様な担い手によって農業を行い、地域を支えていくようなやり方。かつての農村には、子どもも高齢者も障害者も役割を持って共生する「ユニバーサル性」があった。ユニバーサル農業の実践を通して、年齢・性別・障害・文化の違いに関わりなく、誰もが地域社会の一員として支え合うような地域社会の再構築をめざすことが期待されている。